

国造の墳墓・1号墳と 同時期の前方後円墳

香取遺産

Vol. 50



▲城山4号墳近景（1993年調査時撮影）

城山古墳群は、分郷地区の標高約42mの台地にあります。北に利根川が流れ遠く鹿島、常陸を見渡し、東には黒部川とその広大な沖積地を一望することができます。要衝の地です。

香取遺産Vol.34では、下海上国造もしくは国造一族の有力者の墳墓と考えられる城山1号墳を取り上げました。今回は4号墳を紹介しします。

城山4号墳は、城山第二浄水場の敷地内にある前方後円墳です。前方部に盗掘跡と思われるくぼみがあり、裾部にその時に抜き取られたものでしょうか、石棺の一部と思われる石材が残されています。

現在、確認できる墳丘は全長34mで、くびれ部が細

く前方部が開いています。また、前方部の高さが後円部の高さに迫っており、古墳時代後期の形態を示しています。

主体部の構造や副葬品の内容は分かっています。が、本古墳の遺物として、円筒埴輪と人物埴輪・馬形埴輪が出土しています。その制作技法や粘土の特徴が、1号墳の埴輪と近似していることから、1号墳と同じ6世紀終わりごろの築造年代と考えられています。

本古墳は、1号墳と同じ前方後円墳という形の墳丘ですが、その全長は1号墳の半分程で、その差は歴然としています。もし、4号墳の主体部が石棺あれば、長さ6mの横穴式石室をも

つ1号墳とは、この点でも大きな違いがあります。普通、このような違いは、被葬者の身分の差を反映していると考えられます。

同時期に複数の高塚式墳墓を築造するのは、大変な労力を必要としたと思われます。しかし、敢えて1号墳と4号墳を同時期に築造しなければならなかった背景には、4号墳の被葬者も下海上国造一族の中である程度高い地位の人物であったと想定されます。

本古墳は、下海上国造一族の構成を考えるうえで、重要な示唆を含んでいるといえるでしょう。

昭和48年4月23日に市の史跡に指定されました。

問い合わせ

生涯学習課 ☎(50)1224